

社会科学学習指導案

授業日時 令和元年 9 月 13 日(金)第 4 校時
授業学級 2 年 A 組 男子 18 名 女子 20 名 計 38 名
授業会場 2 - A (301) 教室
授 業 者 _____
指導教員 _____
指 導 者 _____

1 単元名 「九州地方ふしぎ発見」

2 単元の目標

ア【社会的事象への関心・意欲・態度】

九州地方の自然環境の特徴や環境保全を推進していくための取り組みについて、資料を基にして、調べたり、考えたりしようとする態度を養う。

イ【社会的な思考・判断・表現】

九州地方で見られる産業や環境保全の様子を、自然環境や社会環境と関連付けて捉えることができる。

ウ【観察・資料活用の技能】

九州地方にある火山の噴火や土砂災害、公害問題に関する資料から、必要な情報を取捨選択して、その情報を考察したり、関連付けたりすることができる。

エ【社会的事象についての知識・理解】

自然環境を利用した九州地方の人々の生活の様子や、環境を保全していくための対策について理解することができる。

3 単元展開(全 5 時間)

学習活動	時間
九州地方で見られる自然災害の原因を調べることで、九州地方の自然環境の特徴について理解した。	1
宮崎平野の促成栽培などを例とし、九州地方の人々は厳しい自然環境の中でも、土地の条件や温暖な気候を上手に利用し、産業や生活に活かしていることを理解した。	1
福岡市のような都市部を事例に、都市化による都市洪水やヒートアイランド現象の発生、それらが起こる要因と対策について理解した。	1
北九州市工業地帯の歴史の変遷や市民・行政などが主となり、環境改善の取り組みから、過去の公害を繰り返さず、改善の道をたどっていることを後世に受け継いでいくという北九州市の人々の思いを理解した。	1
北九州市の大連市への技術援助を行っていることから、国境を越えた枠で発生する環境問題には、地球規模で対応していくことが重要になってくることに気づくことができる。【本時】	1

4 本時の主眼

なぜ北九州市は、大連市に技術支援を行っているのかを考える場面で、日本における中国に対する政府開発援助の賛否を友と議論し合うことを通して、中国への支援は、日本への多大な影響を考慮していることや、地球規模で環境問題に対応していくことの重要性について気付くことができる。

5 本時の位置(全 5 時間扱い中 第 5 時)

<前時>北九州工業地帯の歴史の変遷から、工業化による環境問題を考えた。

6 指導上の留意点

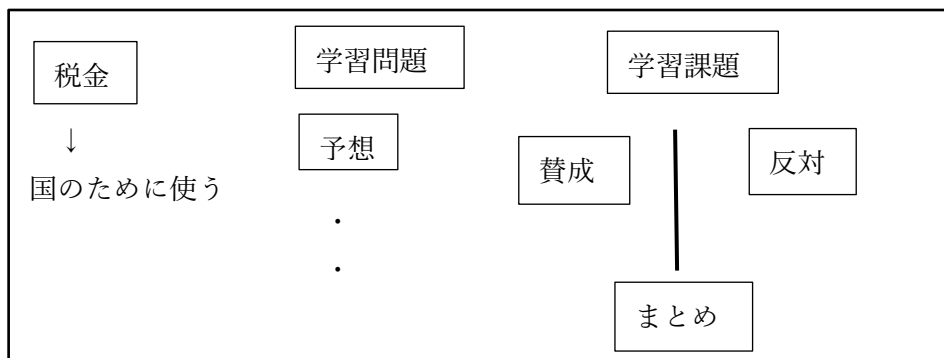
- ・なぜ日本が中国を技術支援したのかを考える場面で、日本における中国に対する政府開発援助の賛否が一方に偏らないように留意する。

7 展開

過程	学習活動【学習形態】	予想される生徒の反応(○)	教師の支援(・)と評価	時間
導入	1 北九州市が大連市の環境改善の取り組みを支援していることを取り上げ、学習問題を設定する。【全体】	○中国では、大気汚染が問題になっているよね。 ○でも、大連市の公害は改善されているよ。 ○北九州市が改善に関わっていたの。 ○なぜ北九州市は日本じゃなく、中国大連市をわざわざ支援したのかな。 ○税金を使って技術支援の費用を払ってるから、日本国内で使った方が得なんじゃないかな。 ○北九州市から大連市まで 1000 km以上離れているだから関係ないような気がするね。	・中国の大連市の公害が改善される前後の写真を提示し、これに北九州市が 300 億円という多額の費用を税金から費やして、公害を克服していくことに参与している事実を紹介することで、なぜ北九州市が技術支援したのかという疑問を持つことができるようにする。 ・北九州市からの距離を表した図を提示し、外国に支援していることに着目するように促すことを通して、「みんなは遠く離れた大連に支援を行うか」と尋ねることで、わざわざ支援する理由はなんだろうという疑問を生徒が持つことができるようにする。	8
	2 学習問題に対し、自分の予想を発表し、学習課題を設定する。【個人・全体】	○中国は、大気汚染が深刻だから。 ○北九州市は、過去に同じような公害が起こっているから。 ○同じような公害があったので、解決策も知っていると思った。 ○300 億円は、沖ノ島島の護岸工事と同じ額だね。 ○今後、オリンピックも開催されるから、日本の費用に回した方がいいのではないかな。 ○日本にも多大な悪影響を及ぼすから、支援して改善していこうと考えたからではないかな。 ○税金を使用するならもっと日本のために使うべきなんじゃないかな。 ○税金を使用するならもっと日本のために使うべきなんじゃないかな。	・前時の内容を振り返るように促すことで、過去に同じような公害が発生していた北九州市だからこそ、中国への支援ができたのではないかということに気付くことができるようにする。 ・中国への協力しようとしている考えについて、大連市への技術支援にかかる費用が 300 億円と高額であることを生徒に伝えることで、中国の大気汚染問題を解決した方がいいのか、または 300 億円の費用を自分たちの生活に使ったほうがいいのかについて考えることができるようにする。	7
展開	3 グループを作り、日本が中国に対して、行った援助の賛否について話し合う。【グループ】	○中国の大気汚染問題は、以前からかなり問題視されていることで、世界規模の問題となってきたので、国際協調のためにも日本は支援を行うことには、賛成です。 ○私も賛成です。理由としては、中国の大気汚染問題は、中国国内だけでなく、pm2.5 の被害も九州地方には、出ているので日本人の生活にも影響を与えている問題なので、日本も支援を行う必要があると思う。 ○私は、日本が中国に支援を行うのは反対です。理由としては、	・配布資料を基にして、学習問題に対して、話し合いを進めていく中で、互いに新たな視点を取り入れることによって、自分の考えを広げたりすることができるようにする。 ・【資料①】北九州市が大連市に技術支援を行うようになったきっかけの資料を提示し、「北九州市は大連市をどうして支援しようと思ったのか」と尋ねることで、大連市が 1960 年代の北九州市と同じ状態にあることに気付くことができるようにする。 ・【資料②】pm2.5 が九州地方に多大な被害を与えている資料を提示し、「日本とはどのような関	15

	中国の支援に使っているお金は税金なので、オリンピックや災害の復興に費やした方がいいと思うから。 ○私も反対です。理由としては、中国は日本からも遠く離れているし、税金を使ってまで行う必要はないと思う。 ○私は税金は日本国内で、病院などの公共施設の建設に使われるべきだ。	係があると読み取ることができるか」と尋ねることで、中国の大気汚染問題は、国境を越えた問題であることに気付くことができる。 ・【資料③】中国大連市への技術支援費に 300 億円を費やしていることを提示し、巨額の費用が日本の税金から公共施設が作られていることを伝えることで、日本の支援の良し悪しについて議論することができるようにする。 ・3 つの資料の中からどの資料を選択したのか尋ねることで、判断根拠を明確にすることができるようにする。	15
終末	4 クラスの他の人の意見を聞いて参考にしながら、再度個人で自分の意見を深める。 【個人】 ○私は、中国の支援を行うことに賛成です。確かに支援費用を日本国内で使用した方がいいという考えもあると思いますが、中国の問題は、世界規模なので、先進国である日本が中心となって解決していかなければならない。 ○私も賛成です。理由としては、過去に同じような環境問題が発生した北九州市が中国を支援することで、環境問題の解決に少しでもつながってくると思うから。 ○私は、反対です。中国は、経済成長も目覚ましく、自国で環境問題への対策をもっとしっかりと行うべきだと思います。	中国への支援は、日本に悪影響を与えることや、地球規模の環境問題は、国境を越えて解決していくことの大切さや税金が何に使われているかに気づき、自分の意見を賛成・反対のそれぞれの立場から考えられているのかを発言や学習カードから評価する。 ・自分の意見がなかなかまとまらない生徒に対しては、友が発表した意見を参考にしながら、自分に近い意見を取り入れ、考えを整理することができるようにする。	5
	5 5回の九州地方についてのまとめとして、九州地方の人々は、厳しい自然環境とどう向き合っているのかだろうかについて考え、分かったこと、疑問に思ったことをまとめる。 【個人】 ○九州地方の人々は、厳しい自然環境を上手く産業などに利用し、公害や都市化に対して、環境対策にも積極的に取り入れているということを学んだ。 ○北九州市の環境問題の解決に対する意識は他の都道府県も見習っていかないといけない。	・「九州地方の人々は厳しい自然環境とどのように向き合っているのか」と問うことで、5 時間の内容から九州地方の自然環境の特色や環境問題に対する人々の取り組みについて改めて確認することができるようにする。	

8 板書計画



○準備するもの

- ・ パワーポイント
- ・ 教科書
- ・ 資料
- ・ フラッシュカード
- ・ 学習カード